



館長だより

山形県産業科学館

令和6年12月14日(土)

発行 館長 加藤智一

ジャンタニコイコイ

NPO 法人島根県木村式自然栽培実行委員会のホームページを拝見しておりましたら、全国的に水田の厄介者として農家さん達を困らせている「ジャンボタニシ」の習性および駆除について発信しておられましたので、これを基に考察述べさせていただきます。そもそも、1匹の「ジャンボタニシ」が1年で産卵する数は約 8000 個とも言われ、繁殖力の高さは脅威的。一般的な対処法としては、冬の寒いときに耕起して土中で越冬するタニシを空気にさらす。代掻き後に「ジャンボタニシ」を捕殺。卵は、水に弱いので、見つけたら水中に落とす。ただし、卵には神経毒があるので素手ではしないといった対策がとられているそうです。それでも繁殖が確認されたら、素早く集めて捕獲する必要があります。そこで目を引いたのが、「ジャンボタニシは苗よりも段ボールの方が好きだ。」という文言。タニシが段ボールを食べる？ということ？山羊も紙を食べるのだからマッいいのか!!これが本当ならば、たんぼに段ボールを入れて、集まってきた「ジャンボタニシ」を一網打尽に駆除できるのでは？まるで「ゴキブリホイホイ」ならぬ「ジャンタニコイコイ」も夢ではない。というわけで、早速、30cm四方の田ボールを畦の側に差し込んで実験してみたそうです。その結果、一週間たってみたら、すっかり溶けた段ボールに、うじゃうじゃと奴らは集まっているではあ～りませんか。しかし、「ゴキブリホイホイ」と違うのは段ボールが解けてしまっていて、このまま引きあげることができなかったとのこと。でも拾い集めることはできるので、「ジャンボタニシ」を集めることには成功したわけですね。

「ジャンボタニシ」の捕獲には、全国で様々な方法が試されており、JA 伊勢では「ジャンボタニシ捕獲器」なるものを無料配布して、撲滅を図っています。そんな闘いのさなか、熊本大学の大学生起業予定集団 QUINT からこんな情報が。約 2500 種類の食品データから情報解析技術を使って「ジャンボタニシ」の誘引率を可視化し、食品の特定と成分の配向を割り出し「ジャンボタニシ」を一網打尽にする誘引剤「ジャンタニコイコイ」を開発したというもの。それはすごい!!一時間程度で結果が出るなら使えるね。農家を救う画期的な発明になるかも。

さてそこで、次なる問題は、捕獲した「ジャンボタニシ」を利用できないかという話になるかな。劇的に美味しく食べられる調理法はあるのか？肥料や飼料として利用する手立てはないのか？何らかの加工品としての利用法はないのか？等々、心配の種は尽きない。



※スクミリンゴガイ (学名 *Pomacea canaliculata*) は、リンゴガイ科に属する淡水棲の巻貝である。俗に「ジャンボタニシ」と呼ばれる。淡水巻貝としては極めて大型である。殻の形は独特で縦の長さと同様の長さはほぼ同じである。殻は右巻きの5段で成体は殻高 50 - 80 mm に達する。卵は多数が固まった卵塊を形成し、鮮やかなピンク色で目立ちやすい。